

【プロジェクト部門】

「にぎわい」

ワークショップや上演などを繰り返し実施するなど、住民の継続的な、あるいは広範囲からの参加をうみだしていく工夫がうかがわれた。一過性のイベントとは違う「にぎわい」をどのように作りだしていくのか、今後のさらなる展開を期待したい。

「芸術性」

どの提案も、異なった視点からのアプローチで、多様性に富んでいて、レベルも高く、全体として満足している。芸術のための場をつくっていくような提案も期待しているが、そこでおこなわれるプログラムの芸術性も問われるのは言うまでもない。

「場を活かす」

アーカイブにかかわる提案が出てきており、場については、時間軸を視野にいれた着想も魅力であると考えている。また、「活かす」ことには、中川運河に接し、感じて、理解することも含まれる。そのようなトータルな取り組みが必要である。

「実現性」

制作にあたっての確実性や安全性を考慮すると、実現するに足る実績が欲しいと考える。また、申請時の提出書類と選考会でのプレゼンとの間で、意図や制作・発表に齟齬があると、評価に混乱をきたすことになり、実現性に危惧をいだくこととなった。

「地域への根付き」

住民が中川運河に誇りを感じるよう、本助成に限ることなく、地域で継続的に取り組んでいく視点が必要であると考えている。しかし、根付いているのかどうかは、必ずしも客観的に評価できるわけではなく、今後も応募者とともに考えていきたい課題でもある。